



自衛隊埼玉地方協力本部

JAPAN SELF DEFENSE FORCES SAITAMA PROVINCIAL COOPERATION OFFICE

防医大看護科2次試験説明会を開催

埼玉地方協力本部（本部長 山下一空 佐）は、11月14日（土）本部庁舎（さいたま市浦和）において、防衛医科大学校（看護科）1次試験合格者に対し、説明会を実施した。この説明会は、2次試験受験者に対し受験への不安を払拭してもらおうと埼玉地本が例年行っているもので、リクルーターとして防衛医科大学校から4年生2名、2年生1名、1年生1名の計4名を招聘しての開催となった。

参加した7名の2次試験受験予定者は、2次試験対策についてアドバイスを受けるとともに学生生活について熱心に質問する姿が見られ、来る2次試験に向けて意欲を高めていた様子が伺えた。

対応に当たった防衛医科大学生4名も将来の後輩となるであろう参加者へ熱いエールを送っている場面が印象的であった。

埼玉地本では今後も各種採用試験の受験者に対して同様の取り組みをもって支えていきたいとしている。



県内の中学校の「総合的な学習の時間」で南極の氷を紹介

埼玉地方協力本部（本部長・山下一空 佐）は十一月五日（木）、川越市立砂中学校で、文部科学省が推進する「総合的な学習の時間」への協力の一環として、海上自衛隊南極地域観測協力活動の講話を実施し、南極の氷を紹介した。

本講話は、海上自衛隊から配布を受けた南極の氷を学校教育に役立ててもらおうと、埼玉地本公式ツイッターにて希望する学校を募集したところ、砂中学校から依頼を受け実現したもので、埼玉地本が行う南極観測協力活動の講話としては十月十三日川口市立神根中学校での実施に引き続き二例目、「総合的な学習の時間」への協力としては初の事例となった。これに第一学年生徒約150名が参加し、同地本広報室長・松尾一海尉から講話を聴講した。

その後、南極の氷を触ってみたい生徒を募ったところ、たくさん生徒が希望し、長蛇の列ができていた。初めて南極の氷を触った生徒は、今まで感じたことのない、氷が掌でパチパチッと弾ける感覚に驚き、感動していた。

そして、最後に代表の生徒から「今日は私たちのためにありがとうございました。この経験を今後活かしていきます。」というお礼の言葉とともに花束の贈呈が行われた。埼玉地本では、「南極の氷の活用は、「総合的な学習の時間」への協力に非常に効果的であると感じており、今後も本活動を通じて、防衛省・自衛隊の活動についての理解、認知度の向上を図るとともに、地域の学校教育に協力していく。」としている。

